NPO法人 小樽ソーシャルネットワーク 会報

きとうと

無料 ご自由にお取りください

No. 4 2013年3月発行

発行元／特定非営利活動法人 小樽ソーシャルネットワーク

事務局／〒047-0031 小樽市色内1丁目9-6 株式会社オー・プラン内
☎0134-29-1003 FAX 0134-29-0594

「きとうと」とは

小樽を象徴する漢字である「樽」を"へん"の「木」と"つくり"の「尊」に分け、それぞれの読みを合わせた命名です。

NPO法人〈小樽ソーシャルネットワーク〉とは……

小樽の"まちづくり""情報化"をすすめることなどを目的として2012年に立ち上げられたNPO法人。おもに市内で活動するさまざまな職種（IT関係、税務・法務、出版・放送など）のメンバーが集まって組織されました。市民向けの講座〈オタルまちかど大学〉を開催するほか、インターネットサイト、出版物、放送（FMおたる）を通じての情報発信などを行っています。**◆本紙6ページの案内もご覧ください。**

『きとうと』第4号 ～今号の内容～

◆小樽ソーシャルネットワーク、この1年

2012年度（2012年4月1日～2013年3月31日）を振り返り、この1年間におこなった活動の内容をご報告します。

●当NPOが受託した事業などについて …… ❷
●主催事業〈オタルまちかど大学〉まとめ …… ❸
●街歩きイベント〈見よう歩こう小樽散歩〉 …… ❸
●小樽商大〈マジプロ〉との共同イベント …… ❹

◆小樽ソーシャルネットワークのご紹介

●会のご案内・入会のお願い …… ❻
●メンバーの紹介・コラム"雑記帳" …… ❼

〈インターネット安全教室〉

11月24日に開催しました

私たち〈NPO小樽ソーシャルネットワーク〉（OSN）が開催する〈オタル街かど大学〉の1講座として、昨年11月24日に『インターネット安全教室』を開催しました（主催／経済産業省、NPO日本ネットワークセキュリティ協会、共催／NPO小樽ソーシャルネットワーク、北海道情報セキュリティ勉強会せきゅぽろ」後援／情報セキュリティ政策会議、警察庁、北海道警察本部、小樽市教育委員会、小樽市PTA連合会）。

前半はNPO日本ネットワークセキュリティ協会の講師で東京のIT企業に勤める松本照吾さんのお話。経済産業省が制作したDVDと冊子を教材にビデオの上映とクイズ形式で行われました。とかく専門用語や横文字が多いインターネットですが、小学生から高齢者までにわかりやすい内容でした。

後半は北海道警察本部・石田勇治さんによるネットワーク犯罪の被害状況についてのお話。他人のIDやパスワードを盗み出す犯罪手口のほか、不法コピーのDVDや偽ブランド品をインターネット上のオークションで販売するケースなど、一般の人でも知らずに巻き込まれやすいトラブルについて注意を促しました。

◀前半を担当した松本照吾さん

今月の一枚 雪解けを集める朝里川

小樽市街の東側を流れ下る朝里川は市内で数少ない、豊かな流れをもつ川です。雪解けの時期にはとりわけ水量が増し、清冽な水が勢いよく流れ下っていきます。河畔の木々の新緑、遠くの山のかすかな春紅葉、スキー場の残雪といった淡い色彩は、この時期ならではのもの。朝里川沿いでは近年、地元有志によるNPO法人〈小樽・朝里のまちづくりの会〉が遊歩道整備を進めています。一部では桜の植樹も行われており、いずれは川の流れに沿って桜並木ができあがることが期待されています。

※写真は昨年5月上旬に撮影

NPO法人　小樽ソーシャルネットワークの活動報告

2012年度［2012年4月～2013年3月］におこなった事業のまとめ

〈オタルまちかど大学〉第Ⅱ期5回を開講しました

〈オタルまちかど大学〉は私たちNPO法人〈小樽ソーシャルネットワーク〉（OSN）にとっての中心的な事業のひとつです。法律や福祉など暮らしのうえで必要となるさまざまな内容の講座、また自分たちの街に関わるテーマのディスカッションをとおして〝地域力・市民力〟を高めることをめざしています。

今年度は第Ⅱ期として計6回の講座を開催しました。

●第1回（2012年9月29日）
超高齢社会を生きる
講師：矢野　諭　先生（医療法人社団青優会 南小樽病院 病院長）

誰にでも必ずやってくる〝老い〟とどう向き合うかは大事なテーマです。老いに逆らうのではなく、老いを積極的に受け入れ、寄り添うという発想の転換を矢野先生は提案します。さまざまな治療を受けてでも長生きするのがいいのか、あるいは好きなことを楽しむのを優先するのか――。「どんな生き方を選択するかは個人の価値観」との話には、多くの人が共感するところ大だったようです。

●第2回（2012年10月6日）
パネルディスカッション
小樽のいきいきシニアから元気をもらう
パネラー：井上一郎さん／倉重紀久男さん／馬場和子さん
コーディネーター：片桐由喜さん（小樽商科大学教授・小樽ソーシャルネットワークオブザーバー）

〈オタルまちかど大学〉として初めてパネルディスカッション形式での開催です。活躍中のシニア世代3人をパネラーとして迎えました。78歳になった今も水道機器メーカー〈光合金製作所〉の会長として現役の井上一郎さん、総合商社退職後、帰郷して〈小樽観光ガイドクラブ〉を立ち上げて活動する倉重紀久男さん、手作りケーキなどをインターネットをとおして販売する馬場和子さん。現在の活動内容やそこに至った経緯や考えなどを語ってもらい、高齢社会を生きるヒントを見いだしました。

コーディネーターは当NPO法人のオブザーバーでもある小樽商大の片桐由喜教授。社会保障・福祉などの専門家の立場で歯切れのいいコメントをはさみながら進行してくれました。

●第3回（2012年10月13日）
これだけは知っておきたい相続と贈与、そして税金
講師：佐藤寿志・税理士（小樽ソーシャルネットワーク理事）

税金のなかでもとりわけ高い関心を集めるものの一つである相続税。納税者自身が税金を計算して申告する必要があるだけに、税の仕組みや優遇処置などをよく理解しておく必要があります。ここでは当NPO法人の理事でもある佐藤寿志税理士が、相続税の計算方法、優遇処置などの基本を解説。

現状ではかなり多くの資産がない限りは気にしなくて済む相続税ですが、今後予定される基礎控除の減額によって、相続税対策が必要となる人が増える可能性が高いことも話されました。

●第4回（2012年10月27日）
パネルディスカッション
みんなで盛り上げよう小樽のまちづくり
パネラー：篠崎恒夫さん／中　一夫さん・渡部　満さん／福島慶介さん
コーディネーター：大津　晶さん（小樽商科大学准教授・小樽ソーシャルネットワークオブザーバー）

小樽ではそれぞれの視点でまちづくりに関わる団体がいくつかあります。当NPOもそのひとつですが、各団体どうしが交流する機会は意外に少ないもの。そこで4つの団体の代表に集まってもらい、それぞれの活動内容や、活動を進めるうえでの課題、問題点など積極的な意見交換を図りました。

今回のパネラーは篠崎恒夫さん（小樽再生フォーラム代表運営委員会議長）、中　一夫さん（NPO法人小樽・朝里のまちづくりの会事務局長）、渡部　満さん（NPO法人祝津たなげ会事務局長）・福島慶介さん（NPO法人小樽ソーシャルネットワーク理事）の4人。コーディネーターは当NPO法人のオブザーバーのひとりで、大学の地域連携活動などに関わりの深い、小樽商大の大津晶准教授に務めていただきました。

●第5回（2012年11月24日）
インターネット安全教室
（→本紙1ページをご覧ください）

●番外編（2012年11月14日）
商大生と考えるこれからの小樽
（→本紙4ページをご覧ください）

パネルディスカッション形式で行われた〈オタルまちかど大学〉第Ⅱ期第2回目。参加者のなかにも、さまざまな活動をしているシニアの方がたくさんいらっしゃいました

受託事業／連携事業
OSNとして関わった仕事です

〈小樽ソーシャルネットワーク〉では今年度、外部団体・機関からの発注、またはそれらと連携した業務も行いました。

●2012年7月27日～29日
〈おたる潮まつり2012〉会場に当NPO法人のブース出店
「みんなで楽しむAR・ICT」

layar（レイヤー）というAR（拡張現実）アプリや〈トラベラー北海道〉（マーカータイプARを使って観光を楽しむガイドマップ）を使ってAR記念写真を〈ロハブー!!小樽〉（LOHABUU!! OTARU・小樽関連の情報収集サイト）へ投稿するといった最新のICT（Information Communication Technology）技術コンテンツをメインにイベントを行いました。ARドローンというiPhoneやiPadでコントロールするラジコンヘリでの会場内撮影なども〈小樽ソーシャルネットワーク〉独自のコンテンツとして組み込んで注目を集めました。

出店コンテンツのメインは前年度、当NPO発足前にも協力実績のある「総務省地域ICT利活用広域連携事業～ICTを利用した「緑の分権改革」推進事業」との連動です。昨年度より受託事業者の札幌ITフロントより当NPOへ提携依頼をいただき実現したこの一連のICT利活用事業では、最新のARやICTを活用したさまざまな取組みが行われました。

昨年度は当NPOとして防災・減災、お店情報や施設情報といった各種データ整理・提供を行いgreen　AR北海道というウェブマップの制作協力を行いました。またロハブー!!小樽を活用してツイッター、ユーチューブやフリッカーといった各種CGM（Consumer Generated Media）によるユーザー投稿の写真・動画を含めた情報収集や街の紹介映像などの制作も行っています。それらの発表の場として〈小樽ゴールドストーン〉でのシンポジウムを開催し、同時に位置情報タイプのARを使ったまち歩きも行いました。

今年度は特に広域連携事業としての色を濃くした札幌・小樽・函館・釧路で共通して使えるガイドマップをベースにコンテンツが制作され、それらを使ったARまち歩きを潮まつり期間中に実施。AR記念写真を使ったフォトコンテストを最終成果として連携事業を終えました。

前年度、今年度共に連携事業の一環として一般市民が参加できるワークショップを複数回行い、その中で当NPO独自のコンテンツ制作も行うことができました。さらにこのICT事業ではさまざまな取組みを通じたコンテンツ制作のほか、地域ICTの人材育成も大きなテーマとして掲げられており、両年度にわたって小樽商科大学の学生たちが手伝ってくれたことは大きな成果です。

【写真上】おたる潮まつり会場での、ラジコンヘリARドローンのデモンストレーション。会場ではかなり目立ちました
【写真下】ブースではAR（拡張現実）を応用したガイドマップ「トラベラー北海道」を実際に体験してもらいました

〈小樽観光協会〉公式ウェブサイト制作業務の受託

〈小樽観光協会〉公式ウェブサイト制作事業では〈小樽ソーシャルネットワーク〉IT部会の中山仁史、福島慶介、新倉正三が中心となって作業を行いました。

ウェブデザインは福島が担当。パソコン、タブレット、スマートフォン、サイネージなどあらゆるデバイスで閲覧したときに最適化されて表示されるレシポンシブウェブデザインを採用しました。

タグ型検索エンジンは新倉が担当しました。小樽の観光コンテンツに関連するタグで絞り込む、タグ型検索エンジンを新たに開発実装しています。

全体の設計、管理を担当したのは中山です。本業のウェブサイト構築の技術と経験を活かしながらNPO法人ならではの自由な発想と行動で、他メンバーとの協業により素晴らしいデザインとシステムのサイトが完成しました。

〈北しりべし直売所〉ウェブサイト制作業務の受託

北しりべし地域（小樽市・赤井川村・仁木町・余市町・古平町・積丹町）にある農産物・海産物などの直売所や、観光農園を紹介するウェブサイトの制作業務を行いました。

〈北しりべし直売所マーケティングセミナー〉企画・運営業務の受託

北しりべしの農家の方々を対象に農産物の販売や広告の方法などをレクチャーする、マーケティングセミナーの企画・運営業務を行いました（セミナーは2012年3月7日・13日。余市町農村活性化センターにて開催）。セミナーでは商品開発のポイントや販路拡大のためのマーケティング戦略の実際、ITを活用した販売戦略、効果的なPOP広告の作り方などを各分野の専門家がお話ししました。

【6ページに続く】

小樽ソーシャルネットワーク&小樽商大「マジプロ」共同イベント

オタルまちかど大学番外編

商大生と考えるこれからの小樽

●2012年11月14日
●旧・岡川薬局〈カフェ・ホワイト〉

2012年度〈小樽ソーシャルネットワーク（OSN）〉の活動には、小樽商科大学の科目の1つである〈商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト（通称〝マジプロ〟）〉の「地域コミュニティ班」メンバー5人が関わりました。今年度、OSNが行ったイベントにお手伝いとして参加してくれていましたが、そこから一歩進み、学生が主体となったのがこのイベントです。企画から運営までのほとんどが、学生自身の手によって行われました。

学生のほかさまざまな立場の市民など20人あまりが参加。テーブルを囲んで和やかな雰囲気のなかで意見交換が行われました

◆学生、市職員、市議など幅広い参加者が集まって

今回のイベントはマジプロなど、小樽市内で地域との関わりをもちながら活動している商大生が市民と対話しながら、商大生と地域コミュニティのありかたについて考えるのがテーマ。市民と商大生がそれぞれの立場から自由に発言し、「学生が地域に関わること」がどのような価値を生み出すのか、またどのような工夫によってその価値を高めることができるのかについて、意見を出し合おうというものです。

当日は学生のグループのほか、街づくりに関わる団体の代表、市職員、市議会議員などが個人として参加。また前日の北海道新聞に掲載された告知記事を見て、会場に足を運んでくれた一般市民の方も数人おられました。

学生からは、アルバイトなどを通して市民と親密に接することができたという体験や、地元企業と連携して新商品開発を行っている事例が発表されました。その一方で、学生は進級や卒業によって、それまでの活動をうまく引き継げないことがあるという指摘も。また市民の参加者からは「商大生と市民のつながりを、教育の仕組みとして大学で根付かせていくことが大切。そうすることで、受け入れる市民の意識も変わるのではないか」との意見も出ました。

さまざまな意見が交換されたあと、マジプロを指導する准教授・大津晶先生からは「商大生は市民でも旅行者でもない、両者の中間的存在。その立ち位置をうまく生かすことから、新たな可能性が生まれるのではないか」との提言があり、およそ2時間のトークイベントが締めくくられました。

小樽ソーシャルネットワークと関わった　商大生が小樽の活性化について マジプロ 本気で考えるプロジェクト　この1年を振り返って

大津　晶　准教授

12の課題に取り組んだ今年度のマジプロの中でも「地域コミュニティ強化／ソーシャルキャピタルの増進」は、学生にとっては難しいテーマだったと思います。そもそも“コミュニティという概念”が抽象的であることに加えて、地縁の薄い二十歳前後の若者であって小樽に住んで間もない商大生にとって、「小樽の地域力・市民力を高める」という目的を理解し、具体的な目標を立てて活動を実践するのは簡単なことではなかったはずです。しかし設立して間もなく、少しずつ活動を軌道に乗せようとしている小樽ソーシャルネットワークの〈オタルまちかど大学〉や〈見よう歩こう　小樽散歩〉の企画・運営をお手伝いさせていただくことを通じて、小樽の“内側”を少し理解することが出来たのではないかと思います。たしかに商大生の多くが卒業と同時に小樽を離れてしまうわけですが、小樽で学んだ地域力がどこか遠くの土地で芽吹き、豊かな実りを結ぶことを期待します。

斉藤　鈴　〈地域コミュニティ班・代表〉

マジプロ地域コミュニティ班で代表を務めました齊藤鈴です。6月から小樽ソーシャルネットワークの方々と連携して活動を行ってきましたが、この約半年間はとてもあっという間に感じました。既存の活動への参加や私たち学生が考えたイベントの開催を通じて小樽ソーシャルネットワークが目指している地域社会の活性化につながるきっかけが出来ていれば幸いです。

新井田哲人　〈地域コミュニティ班・広報〉

自分たち学生は小樽商科大学の授業の一つにあるマジプロ（学生が小樽の街に出て地域活性化に取り組む授業）を通してNPO法人〈小樽ソーシャルネットワーク〉の方々と一年間、活動させて頂きました。OSNで開催されるイベントに参加する中で、直に小樽市民の方々と交流していく機会があり、時代とともに変化する小樽市民と商大の繋がりについて考えさせられ、とても勉強になりました。最後にOSNの方々、一年間ありがとうございました。

鎌田由実　〈地域コミュニティ班・広報〉

〈見よう歩こう　小樽散歩〉で、観光地とは違う小樽の魅力を知ることが出来たことが印象に残っています。市民の方々からも小樽での思い出話を聞いたことで、小樽の歴史の深さをより感じました。〈オタルまちかど大学〉番外編では、市民の方が小樽のまちや商大生に対する本音に触れました。こうした活動に関わり続けていくことで、商大生が小樽のまちで成長させてもらい、その活力が小樽を盛り上げることに繋がっていくと思いました。

秋本悠斗　〈地域コミュニティ班・記録〉

今年度の活動を通じて、人と人のつながりの大切さをより実感しました。私たちは特に小樽市民と商大生とのつながりについて考えていきましたが、こういった色々なレベルにおいて人と人が議論し合い、交流していくことにより、何か新しいものが生まれ、地域の活性化につながっていくのだと知ることができました。これも〈オタルまちかど大学番外編〉など、NPO法人〈小樽ソーシャルネットワーク〉の皆様が快くご協力してくださったおかげです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

柴田大輝　〈地域コミュニティ班・記録〉

活動当初、実は私はこのような地域活性化をテーマとした活動に参加した経験はなく、戸惑いが多いものでした。しかしOSNとの連携活動（〈見よう歩こう　小樽散歩〉、〈オタルまちかど大学〉等）を行い、やがては助力を受けながらも学生が主催の企画を運営することができたのはとても大きな自信になりました。そのうちに少しだけ見えてきたつもりではあるのが、市民同士のつながりももちろん大事ですが、この連携も一つのつながりになるのではないかということです。私は今後もこの1つ1つのつながりを大事にしたいと考えています。

遺される人に
言葉で想いを
書きつづろう
行政書士・社会保険労務士事務所
OFFICE OGASAWARA
オフィス 小笠原
小樽市色内1丁目9番6号
電話0134-29-3159
ホームページ 遺言書 オフィス小笠原 で 検索

建築の事ならお任せ下さい
注文住宅から重要文化財の補修・復元まで幅広く建築を通じて地域貢献を目指します
特定建設業
一級建築士事務所
FUKUSHIMA
株式会社 福島工務店
住所：小樽市若松1-7-18／電話：0134-23-3542／HP：www.fukushima-km.co.jp

HOKKAIDO ADVERTISING CO.,LTD.
総合広告代理店
株式会社 北海道廣告社
〒047-0003　小樽市真栄1丁目2番2号
TEL（0134）23-3741　FAX（0134）23-3746
Email：hokkou@seagreen.ocn.ne.jp

小樽の旬な情報をお伝えします！
CREATIVE CENTER o-plan
http://www.o-plan.com
企画・デザイン・広告代理・編集・出版
株式会社 オー・プラン　〒047-0031 小樽市色内1丁目9番6号
TEL(0134)29-1003㈹　FAX(0134)29-0594
適合広告チラシ「おたるウォッチング」好評発行中！

この街のおもしろいこと、掘り下げます
気付かなかった街の魅力がいっぱい。〈小樽散歩案内・新版〉市内書店などで好評発売中です。
小樽の出版社 ウィルダネス
http://www.otarubooks.com/　小樽市稲穂 1-12-601　☎0134-61-1150

FMおたる 76.3 MHz
小樽に確かな今をお届けします
FMおたる
小樽市入船4丁目9番1号
TEL 0134-32-1000
Mail 763@fmotaru.co.jp
http://fmotaru.co.jp

K2 [ケイツー]
小樽市稲穂3丁目15－5 野口ビル1階
Telephone 090-8635-3061

【3ページから続く】

2012年度、OSNがおこなった その他の事業・活動

街を歩いて小樽の歴史を知る〈見よう歩こう小樽散歩〉の実施

私たちが住む小樽の街をよく知ろう。それによって地元への愛着を深められれば……。そんな思いから企画したイベントを今年度、計3回実施しました。

◆第1回（6月23日）「北運河～手宮」

旧手宮線に残る古い踏切、石山の崖を切り崩した跡、手宮の街並み、かつての鉄道施設「擁壁」や石炭積み出し施設の跡、などを見学。

◆第2回（6月30日）「潮見台界隈」

〈北の誉酒造〉創業家の邸宅・和光荘を見学後、五百羅漢で知られる宗圓寺へ。古風で洒落た建物のある潮見台浄水場を見た後、明治の末に造られて軍事道路と呼ばれた古道も通りました。

◆第3回（11月3日）「入船～住吉神社」

南小樽駅をスタートし、かつて繊維問屋街として栄えた街並みへ。明治時代の橋脚が今も現役でJRの線路を支えている入船陸橋を見た後は、住吉神社境内を散策。参道に建つ鳥居や灯籠、石段は明治時代以来多くの大商人によって寄進されたもの、といった話を聞きます。

各回とも小樽ソーシャルネットワーク理事の佐藤圭樹がガイドを担当しました。小樽の街や歴史に関する出版に携わってきた経験を踏まえ、さまざまなエピソードを交えながらお話しして好評でした。3回通して参加された方も少なくありません。

各回とも20人あまりが参加。熱心にメモを取りながら話を聞く人も多くいらっしゃいました。今年度の最終、第3回目は秋も深まった11月3日に開催。写真は南小樽駅北側、かつての駅入口について説明中

〈FMおたる〉番組での情報発信

当NPO法人の理事でもある石橋八千代担当の番組〈おめしゃきっ！〉において毎週水曜日の朝10時台に小樽ソーシャルネットワークのコーナーを設け、その時どきの活動状況、イベントの予定などをお知らせしています。

会報〈きとうと〉の発行

NPO法人〈小樽ソーシャルネットワーク〉の活動をお知らせする会報〈きとうと〉はこれまで創刊準備1号（2012年1月）、創刊準備2号（4月）、創刊1号（7月）、2号（11月）、3号（2013年1月）と発刊してきました。

小樽のまちを元気にしたい！

NPO法人〈小樽ソーシャルネットワーク〉のご紹介

〈小樽ソーシャルネットワーク〉とは

小樽のまちのために何かしたい――。そんな思いの人が集まり、2012年1月に発足したNPO法人です。目指すのは小樽の「まちづくり」と「情報化」。市民向け講座〈オタルまちかど大学〉の開講や地域SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）、出版物、放送での情報発信などを通じて小樽の地域力向上を進めています。

◆市民向け講座〈オタルまちかど大学〉の開催

市民生活の向上をめざして開講される専門家による講座。生活、福祉などをテーマにした年に1期（5講座程度）の本編のほか、おもに若者を対象にIT技術やクリエイティブな内容を解説するワークショップ形式の特別編もあります。

◆会員情報誌〈きとうと〉の発行

本誌〈きとうと〉の発行は当NPO法人の、出版物による情報発信活動のひとつです。地域活性化の視点をもった情報を掲載し、市民の方と情報共有します。会の活動内容に合わせて年4回程度発行。

◆インターネットサイト「地域SNS」の運営

インターネットを利用した、当NPO法人の情報発信活動です。活動状況や会員間の交流のために開設しています。小樽にあるさまざまな情報を集約し、まちづくりのプラットフォームとなることをめざしています。またフェースブックによる情報発信も始めました。

◆FMおたるでの情報発信

週1回程度〈FMおたる〉の番組のなかに当NPO法人のコーナーを設け、市民の方に電波を通じて会員の生の声で情報を発信しています。

会活動を継続していくために 皆様からのご支援が必要です

NPO法人〈小樽ソーシャルネットワーク〉の活動は、会員（企業・団体・個人）からの会費や寄付金に支えられています。活動の趣旨をご理解いただいたうえで当NPO法人にご入会いただき、会へのご支持をくださいますようお願い申し上げます。入会のお申し込み・お問い合わせは下記宛てにどうぞ。

●特定非営利活動法人 小樽ソーシャルネットワーク
●事務局：小樽市色内1丁目9番6号（株）オー・プラン内
TEL0134-29-1003 FAX0134-29-0594 http://www.otaru-sn.net

メンバーが持ち回りで小樽との関わり、会への思いなどを綴るコラムです。

私にとっての後志・そして小樽

理事（情報誌部会）・石橋　八千代

小樽に来て早17年。赤ちゃんがあっと言う間に高校生になる年数である。

私は父の仕事の関係で高校生まで積丹、倶知安、ニセコと後志管内を廻って来た。自然一杯、海の幸・山の幸がふんだんにあり、漁師のおじさんや農家のおばさんから海の幸や山の幸をざる一杯に頂いた記憶が残っている。後志は私に何物にも代え難い「自然」というプレゼントをくれたが、反面、生活をする上での不便さも体験させられた。

私が小学5年生から中学3年生迄の5年間は積丹半島の先端に近い神岬という、バスも走っていない町に住んでいた。当然、書店や映画館など文化を感じられる施設は一切なく、映画を観に行く時はバスに揺られて小樽まで行くしかない環境であった。思春期の頃は大きなスクリーンで映画を観たい、俳優さんの汗を感じるお芝居も観たい、当時花の中3トリオで大人気だった山口百恵さんのコンサートに行きたい、と思ってもどれも叶わぬ夢で終わっていた。

「夢を現実にするには都会に行くしかない！」。都会への憧れは大きくなるばかりであった。当時、放送への憧れもあって、放送を勉強できる大阪の大学に行くことを決意する。札幌ではなく東京でもない、いきなり浪花の大都会・大阪に行くことに両親は反対することもなく、私は大都会での大学生活に希望を抱きながら後志を離れたのである。

ところが夏は蒸し暑く、冬は底冷えがする大阪に住めば住むほど、後志の澄んだ空気や美味しいお水が恋しくなり、早く北海道に帰りたいと思うようになっていった。大阪生活7年を経て北海道に帰って来た私は、新千歳空港に降り立った瞬間、新鮮な空気を胸一杯に吸い込み安堵したのだ。

そして今、後志の玄関口である「小樽」で仕事をしている。居住年数が長いとその街の良さを見失いがちであるが、その街を離れて改めてわかる良さに気付くことが沢山ある。自然に囲まれ食べ物が美味しい小樽に住んでいる私達は幸せである。だからこそ、この街を愛し海や山に感謝しながら暮らしていきたいと思う。

楽しい輪は、雑談しながら

オブザーバー（小樽商科大学准教授）　木村泰知

ある学生が「ESの添削をしてもらえますか？」と話しかけてきた。大学3年生は冬から春にかけて就職活動真っ盛りで、就職したい会社に提出するEntry Sheet(ES)を書くことに追われている。ESは就職活動の第一ステップであり、内容や書き方次第では、次のステップとなる面接試験に進めなくなることから、就活生にとって神経を使う重要な作業となっている。その相談にきた学生が見せてくれたESには次のような質問が書いてあった。

「あなたの魅力が伝わる具体的なエピソードを300字で書いてください」

このような質問は社会人にとっても難しい。みなさんなら、このESをどのように書くでしょう？ 大学の教員は、推薦入試の志望理由書やゼミナールの志望理由書などを読む機会が多いことから、就職活動についても少しだけアドバイスができるらしい。特に今回のESの質問事項からは、会社の意図を少なからず汲み取ることができる。それは、質問文の「具体的なエピソード」という表現から伝わってくる。就職活動に限らず志望理由書は、応募者の個性をだすことが難しいようで、内容が似てしまう傾向にある。特に、抽象的な表現で記述された文書は、応募者の人柄が伝わりづらく、誰でも書ける内容になってしまう。

学生が書いたESの内容は、その学生らしさが伝わりづらい抽象的な内容になっていた。本来であればESを添削するはずの時間は、その学生の魅力が伝わってくる具体的なエピソードをさぐる雑談へと変わった。そしてこの雑談は、学生が何を考えてどのような行動をしているのかを知るよい機会にもなった。

学生と雑談をしていて、ふと、小樽ソーシャルネットワーク(OSN)のことを考えた（原稿を依頼された日だったためですが…）。OSNでも、小樽に住んでいる人のネットワークを広げる支援や、交流を促進するしくみを考えているので、そのときには各自の具体的なエピソードを話しながら、楽しい輪を増やしてくのが良いように思う。

小樽ソーシャルネットワークのメンバー

※氏名のあとの記号は所属部会を示します【学】＝オタルまちかど大学部会、【誌】＝情報誌部会、【IT】＝IT部会

◆理事長……福島正紘（株式会社福島工務店代表取締役）
◆副理事長・事務局長……小笠原眞結美【誌】（株式会社オー・プラン代表取締役）
◆理事……小笠原俊介【学】（オフィス小笠原代表）、金子宣裕【学】（障がい者就業・生活支援センター「ひろば」所長）、佐藤寿志【学】（佐藤寿志税理士事務所）、石橋八千代【誌】（FMおたる総合プロデューサー）、佐藤圭樹【誌】（有限会社ウィルダネス代表取締役）、龍山　聴【学】（龍山法律事務所）、中山仁史【IT】（株式会社K2　代表取締役）、新倉正三【IT】（新倉屋システム株式会社代表取締役）、福島慶介【IT】（N合同会社代表、株式会社福島工務店企画室長）、前野晃寛【学】（株式会社北海道廣告社代表取締役）、源　秀人【学】（行政書士・オフィス小笠原）
◆オブザーバー……大津 晶（小樽商科大学准教授）、片桐由喜（同・教授）、木村泰知（同・准教授）、深田秀実（同・准教授）